

ゆとり教育から生まれた「夢・人・未来塾」



子どもたちに居場所を

「夢・人・未来塾」の姿

ノーベル物理学賞に小柴昌俊さん、化学賞に田中耕一さんが決定した平成14年、文部科学省は小学校や中学校などで、全ての土曜日を休業日とする「完全学校週五日制」を施行しました。

これは一般に「ゆとり教育」と言われるもので、その狙いは子どもたちが家庭や地域社会での生活

時間を増やし、学校・家庭・地域社会が相互に連携しながら、子どもたちに様々な活動を体験させ、「自ら考える力」や「豊かな人間性」、そして「生きる力」の育成することです。

桂川町でも完全週休二日制の趣旨を考慮し、「子どもたちの居場所づくり」を目的として「学校週5日制対応事業」（けいせん「夢・人・未来塾」の前身）を平成14年度に発足したのです。

桂川町でも完全週休二日制の趣旨を考慮し、「子どもたちの居場所づくり」を目的として「学校週5日制対応事業」（けいせん「夢・人・未来塾」の前身）を平成14年度に発足したのです。

出前塾なども開始

学校や地域への進出

設立から6年を経過した現在、けいせん「夢・人・未来塾」アンビシャス広場（以下「夢・人・未来塾」）では、小・中学生を対象に茶道や囲碁、卓球など12の塾が年間を通して開催されています。また、毎年11月に開催される桂川町文化祭などに出展するなど、子どもたちの発表の場も広がっています。

昨年からは、「夢・人・未来塾」は塾生だけを対象とした活動の枠だけに捕われず、地域子ども会やPTAの親生活動などの要望を受けて指導者を派遣する「出前塾」を行うなど、積極的な活動を展開しています。



インタビュー 「夢・人・未来塾」塾生



まなみ
大場愛美さん
(桂川小5年)

「何にでもチャレンジ」

私が「夢・人・未来塾」に参加したのは小学校2年生のときです。お姉ちゃんと一緒に始めました。

私は茶道をずっと続けています。やさしく丁寧に茶道の礼儀作法などを指導していただけるので、とてもうれしいです。

一度、親が迎えに来てくれたとき、お茶を点てている最中でした。その時先生に、「お茶を点ててみては」と勧められ、親の前でお茶を点てました。照れくさかったのですが、同時にうれしい気持ちも湧いてきました。今は茶道以外にも、卓球などにチャレンジしています。6年生になっても、「夢・人・未来塾」に参加したいと思います。

